

第140回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成29年2月

日時: 2017年2月24日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 3号館地下 3B-102号室

◆主催: 防災塾・だるま 司会: 山田美智子 記録: 中島光明

◆談義の会参加者: 会員28名 一般20名(含む講師) 計48名(敬称略)

話題: 『横浜市立北綱島小学校 防災教育の取組み』

～今子どもたちに伝えたいこと～

講師: 昆しのぶ氏(横浜市立北綱島小学校校長)

- 防災教育で培う児童の資質・能力とは・・・
 - ・北綱島小学校で育つ児童の姿
 - 卒業後も自ら高めてゆく「生き抜く力」
 - ・そのためのカリキュラムが「きたつな防災プラン」



上: 昆先生 (北綱島小学校校長)
左: 講演会場の模様

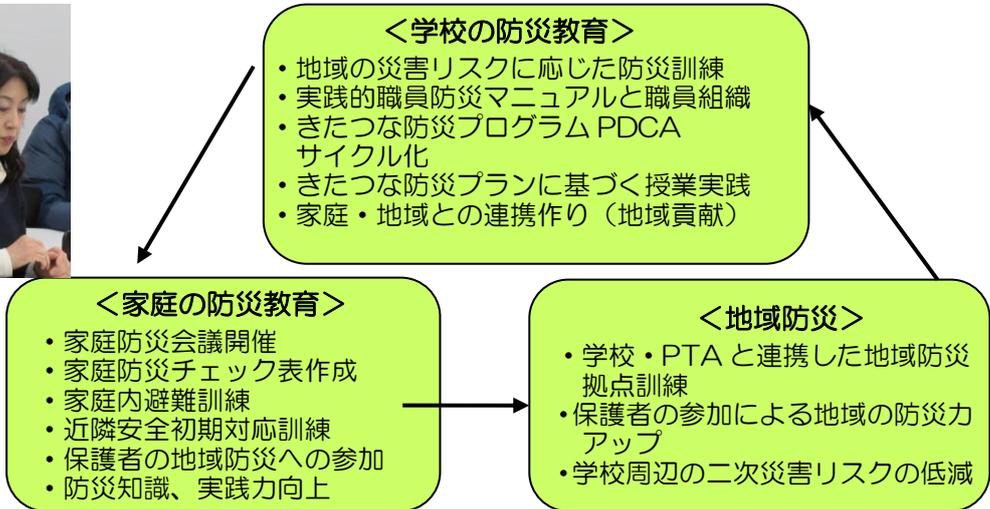


<「きたつな防災」三原則>・・・自助・共助

- ① 日頃の訓練や学習を活かして生き抜く
近隣の火災発生等最悪の事態を想定した実践的な訓練とそれに向けた「職員組織づくり」を行うことにより、職員の対応力を向上するとともに、児童も身を守るための的確な行動をとれるよう実践力を育てる。
- ② 「きたつな防災マニュアル」に基づき家族みんなで生き抜く
学校・家庭・地域の連携による防災教育を進めている(子供が学校にいる時間: 一年間の20%以下)。
 - ・家庭の災害対応力を高めるための取り組みを多面的に実施する。
 - ・全児童に、「家庭防災会議」を行い「家庭防災チェック表」を作成することを課題とする。
 - ・「家庭内避難訓練」は、地域防災拠点訓練の当日8時とする。「地震発生」のメール配信で、まず家の中で身の安全を図り、出火防止・初期消火の想定・一時避難所への移動などを始める。
- ③ 隣近所で助け合って生き抜く
「学校運営協議会」を基盤に、PTA・各委員長・地域防災経典運営委員会・学校の参加により、防災教育の方針を協議する。これに基づいて「きたつな防災プログラム」「きたつな防災マニュアル」などの共通理解を確立して取り組んでいく。地域防災拠点訓練には、全児童が参加する。



左: 荏本先生 (県事業モデル校の対話講師)
右: 藤田先生 (前北綱島小学校副校長)



感想: 学校で家庭で地域で「生き抜く力」を養うために実践されている「きたつな防災」は、正に究極の防災教育と思います。